

目的 日常災害と云われし建物に関する事故のうち、家庭内事故で毎年44人前後の人が死亡し、家庭内事故による重傷者は恐らく40万人はいるのではないかと云われている。主なものは階段からの転落、同一床面での転倒、フロで飛ばれるなどであるが、その被害者は乳幼児、老人に多く集中している。本稿ではこのような事故も起す原因がどこにありその防止策を考へるための基礎資料とあるためのものである。

方法、住居の安全策かどのようにならぬ、内観となる箇所を把握するために、住まいの安全点検チェックシートによる調査を行った。調査は昭和59年3月に行い、対象数は43戸について行い、ヒアリングとアンケートを併用したものである。

結果、床については、滑り易い建材、氷でぬれりと危険が最も多く、次いで転倒したとき周囲に危険物があるなどが多い。壁部分では棚に重いものを置いておき落下の危険を指摘するものがあった。階段では踏板的のり易い材料の使用、階段にものを置いておき、手すりの安全柵が危険などが多い。次いで、階段の急勾配、ノンスリッパの取付方が悪い。階段近くに開口ドアがあるなども多い。ドア、窓については2階以上の窓ガラスを外側から掃除するとおもりをのり出し危険、子供が窓台に立ちやあり、窓のそばに子供の踏み台になりやありものが多い。次いで玄関ドアなどのストッパーの不整備、ドアの開閉方向が悪いなどあげられており、また2階以上の窓の手すり安全柵が充分と云われていないと云うのも多い。その他、台所の作業スペースが通路地している、子供の手の届き易いところにかすがいがある、家具、暖房などにとかつておきところがあり危険など。